

射水市教育委員会 7 月定例会会議録

開会日時 平成 25 年 7 月 24 日 (水) 開会 10 時 00 分

閉会 11 時 40 分

会議場所 下庁舎 201 会議室

出席委員

大代委員長、眞岸委員長職務代理者、伊藤委員、結城教育長

会議事件説明員

橋詰教育次長、亀田教育次長、尾山学校教育課長、島田生涯学習・スポーツ課長、仙田教育センター所長、正橋学校給食センター所長、島崎中央図書館長、原田新湊博物館長、杉本学校教育課主幹、吉野生涯学習・スポーツ課主幹、塩谷学校教育課長補佐

傍聴人数 0 人

会議の要旨

10 時 00 分、委員長が開会を宣し議事に入った。

1 会議録の承認

承認された。

2 教育長の報告

教員研修について

3 議案

(1) 指定管理者の指定の取消しについて

生涯学習・スポーツ課長が資料 1 に基づき説明し、承認された。

4 協議事項

(1) 平成 25 年度教育に関する事務の点検・評価報告書について

学校教育課長が資料 2 に基づき説明した。

5 各課等の連絡事項及び報告事項

(1) 北信越中学校総合競技大会出場選手について

教育次長が資料 3 に基づき説明した。

(2) 教育委員会行事予定

学校教育課長補佐が資料4に基づき説明した。

5 その他

次回教育委員会の開催日時について

日時・場所は、8月28日(水)午前10時から下庁舎で会議を開催

6 議事

(1) 日独スポーツ少年団同時交流事業について(報告)

[事務局] 前回の委員会での質問で事業が具体化してきたのでお答えする。本事業において、日本のスポーツ少年団との交流があるかといった点については、年代的な差があるので交流はない。8月1日に富山高等専門学校生徒との交流はある。富山新港と内川、港町を訪ねて日本海側のウォーターフロントの歴史と近代化の姿を垣間見ると称し、あいの風プロムナード、新湊大橋、放生津八幡宮、川の駅などを見る。

(2) 教員研修について

[委員] 若手育成は大事な分野であり、コミュニケーションを不得意とする若手が増えている。研修でスキルアップしてほしい。

(3) 指定管理者の指定の取消しについて

[委員] グリーンスクエアはどのような形で使われていたのか。

[事務局] フットサルやローラスケート、バスケットボールで利用されていた。主に若者が利用していた。

(4) 平成25年度教育に関する事務の点検・評価報告書について

[委員] P7(1)より良い人間関係の構築についての記述で、具体的な取組が箱書きになっている。特記するのは理由があるのか。これが今後の課題として、しっかり取り組むというのは、わかるのだが、この部分のみこのような記述はいかがなものか。

[事務局] 左側の主な取組と成果については、前年度の取組、実績成果について記述、右側は課題と今後の取り組みとして記述している。特記した部分については、特に力を入れてやってきた事項であるので、このような記述にしてある。箱書きの文字を削っても問題はない。

[委員] P8 子どもの体力向上のための取組の推進に関連して言うが、式典や行事等で学校を訪れ、児童、生徒を見ると姿勢の悪さが目につき、心配しているところである。先日、家庭教育支援講座で「姿勢と健康」という話を聞いて、姿勢の悪さというのは体のみならず心にも悪影響を与えるという指摘があった。猫背はスタミナ不

足になるという。肺が十分に広がらないことから、酸素が十分行き渡らなく、脳にも影響していくということが印象的だった。正しい姿勢をすることで、正しい呼吸がおこなわれ、健康につながるということであった。1校の姿勢が正しい小学校があり、校長が厳しく姿勢について日々言っているということである。子どもは訓練すれば姿勢を保てるということ、その学校の児童を見て思った。学校だけでなく家庭の中でも教えていかねばならない分野であるが、子どもたちの体力向上といったことで、姿勢という基本的なところを来年度に向けて取り組んでいてもらいたいと考える。

入学式、卒業式などは、きちんと姿勢をとるべきである。学校でボランティアをされている方々も姿勢の悪さを言っておられた。授業中のイスの座り方などきちんと座れない子が多い。日々の訓練が必要と考える。

[事務局] 言われるよう姿勢の悪さは気になる。低学年から姿勢が悪い。以前は姿勢図というものが、教室の前に貼ってあったが最近はあまり見かけなくなった。また、鉛筆の持ち方も正しくない。姿勢と鉛筆の持ち方等基本を教える必要があると考える。

[委員] 姿勢について、体育座りは膝を抱え、背を丸くしている。所々で体育座りなど楽な姿勢を取っている。きっちり座ることが意識付けされていない。家庭でも食事の際、テーブルだと子どもにとって高く、左手を使わないでも食べることができる。昔は卓袱台であったので低く、左手で茶碗を持って食べた。食事の仕方から家庭で意識付けする必要がある。学校からも、食事の仕方を家庭教育の中でしっかりとやるよう言わないと姿勢は直らないと考える。目の悪さも姿勢が原因となるところが大きい。姿勢が良くなければ集中ができないということをもっと言えば、家庭でも気をつけられると思う。

[委員] P2の放課後子ども教室開催状況で開催数が小杉小96回、大門小29回と差があるのはなぜか。

[事務局] 小杉は1年生から6年生が対象で4教室行っており、登録されている人数が20, 24, 17, 16名となっている。年間で20回前後の開催をしている。大門は対象学年が1, 2年生で、2教室あり年間30回程度である。低学年だけの理由については、また調べておく。

[事務局] 昨年6月議会でも姿勢に対する指摘があり、イスを変えればどうかという提案があった。猫背防止のバランスチェアというものであったが、輸入品で1脚当たり高価なため、予算的にも厳しいと考えている。

[委員] 子どもは背筋力が弱くなっている。体力向上にいろいろな取組をされてきているが、背筋を伸ばすという習慣づけを取り組んでいくのも大事だと考える。

[委員] 姿勢図はなぜなくなっていったのか。先生が意識するというのも含めて、姿勢図を復活したら良いと思う。

[委員] P13の外国人児童・生徒に対する教育支援体制の整備について、外国人の児童

生徒がいるが、小学校は96名、中学校は6名と差がある。地区別に多いところと少ないところがあるのか。

日本で小さいときから長く暮していれば、学習もついていけると思うが、実際はどうか。また、外国人相談員4名の配置でどのような対応をしているのか。

[事務局] 在籍する児童生徒の国籍については、昨年のデータだが、新湊地区では放生津に14名、ブラジル籍が多い。新湊1名、作道14名フィリピン籍が多く、堀岡7名、東明12名でパキスタン籍が多い。小杉地区では太閤山小が19名、ブラジル籍が多い。中太閤山は17名、ブラジル籍が多い。最近は多国籍にわたっている。大島5名、大門3名。

[委員] 授業はどう対応しているのか。

[事務局] 個別に日本語を教えている。全体指導の中では、日本語が苦手な児童は、なかなかついていけないのが実際である。

小学校96名、中学校6名は、日本語指導の必要な子どもの数であり、外国人子女の数ではない。小学校で指導を受けながら、生活にとけ込むことで日常会話をマスターすることから、中学校になった時点では指導を受ける必要がなくなるということで、小学校では多く、中学校では少ない数字になっている。4人の先生は児童を個別に教えている。

[委員] 外国人の子どもたちが、教室の中で落ち着きがなく、授業に支障をきたすということはあるのか。

[事務局] 来たばかりの頃は、日本の風土になじめないところがあるように伺えるが、違和感はないと思っている。

[委員] いじめとかはないのか。

[事務局] 文化の違いにより、家庭で子育ての手伝いをしたりして欠席する場合や、集金の未納があったり、むしろ保護者の対応が難しいことが多い。こどもがいじめの対象となることはない。保護者たちの相談に乗る人が少ないと感じる。

[委員] 日本人学校は日本人会が教育にかかわっていると思うが、相談員などの給料は文科省が負担しているのか。

[事務局] 現在は県の事業として実施しており、県が負担している形になっている。

市単独での増員及び適切な人材の確保が課題になる。

[委員] 日本には各国から外国人が来ているが、学校で問題が起きないようにしっかり対応してほしい。

[委員] P12の教育相談体制について、H24から相談日の拡充ということで、相談回数が増えている。教育相談員やSSW(スクールソーシャルワーカー)に求められることは多くなっていることが伺える。負担が大きくなっていると思うが、人数は足りているのか。また、スクールカウンセラーの名称が出ていないのはなぜか。

[事務局] スクールカウンセラーは県派遣ということであり、射水市に関する教育相談には、

センターに1名在籍するスクールカウンセラー分だけ入っている。

県からすべての中学校6校、小学校へは2校にスクールカウンセラーが派遣され、事務所管理カウンセラーも小・中学校6校へ派遣されている。SSWは県から派遣されている2名、市で6名雇用、計8名体制で活動している。本年度は、いじめ対策としてソーシャルワーカーが入る2つの学校の事例もある。

H25は小学校の相談が多くなっており、学校現場、家庭訪問など実働時間をより多く持ってもらおうようにしている。ソーシャルワーカーの技能を高めることも考えていく必要があると思っている。

[委員] 予算の都合で相談回数や時間をシビアにすると、相談を受ける側にとって、拒否されたと思いがちになる。対応できる予算を確保されたい。

[委員] 来所相談回数の伸びは、父母が心配になって相談に来られるもので増減幅が小さい。学校訪問相談回数などが、大いに増えているのは、学校の指導の中で教員が心配して、学校が相談しているものである。学校が早めに対応して改善を図っていこうとしていることが伺える。

[委員] 点検評価については、6年経過するが、限られた予算の中で事務事業を年々改善してきているところがある。8月12日に学識経験者の意見聴取会で意見を聞かれ、教育委員会で報告してもらうことになる。

(5) 北信越中学校総合競技大会出場選手について

[委員] 射水市内の学校が出場、活躍すると生徒、学校はもちろん、まちも元気が出てくるので、暑い時期ではあるが、生徒、先生方にはがんばっていただきたい。

11時40分、議事等が終了したので委員長が閉会を宣した。